

古道散策 源平口マン満喫

北蟹谷史跡愛護会が整備

小矢部 源氏ヶ峰

源平俱利伽羅合戦で戦いの舞台となった「源氏ヶ峰」への古道復活を記念したウォーキングが14日、小矢部市内で行われた。北蟹谷史跡愛護会（水口久太郎会長）のメンバーや家族、一般参加者ら45人が往復3・4kmの道のりを散策し、歴史ロマンに触れた。

【Webun に写真4枚】

源氏ヶ峰に続く古道は、木曾義仲と兵に戦ったとき平氏を攻めるため源氏の7れる女武将・巴御前が率いたと伝わる。うち1隊を

たと伝わる。

これまで整備されておらず源氏ヶ峰へは北側の道から往来するしかなかった。南側の松尾集落から尾根伝いに延びるこの古道を、北蟹谷史跡愛護会が今春整備したことで、南北からたどり着けるようになった。

参加者は色づいた木々を眺めながら歩いた。源氏ヶ峰で、同愛護会事務局長の川原俊昭さん(72)の説明を受けた。一帯の峰は平氏が元々陣取っていたが、源氏が攻め落としたため現在の名称になったことや、中世に山城が築かれたことを聞いた。近くの千歳ヶ滝にも足を運んだ。

小矢部市松尾、松井利枝子さん(67)は「歴史に思いをはせながら楽しく歩けた」、同所、中田幸男さん(67)は「紅葉がきれいで、せいたくな時間を過ごせた」と満足そうだった。

源氏ヶ峰で川原さん（手前右）の説明を聞く参加者

